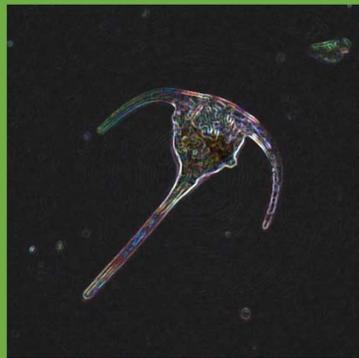
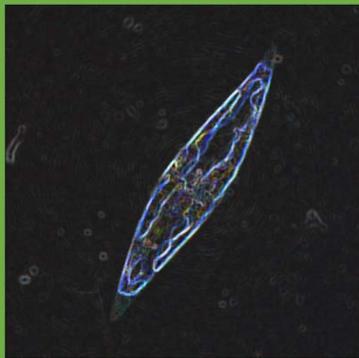
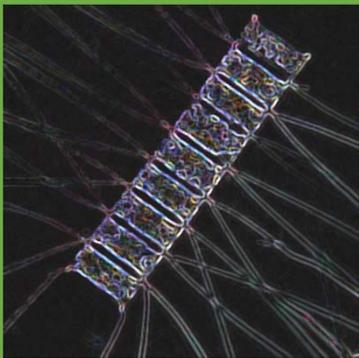


瀬戸内圏研究センター 庵治マリンステーション



Seto Inland Sea Regional Research Center
Aji Marine Station Kagawa University



香川大学

庵治マリンステーション

香川大学農学部では、昭和30年代後半から赤潮の発生機構、養殖漁場の水・底質、環境管理に関する研究が行われてきたが、より現場に密着した調査研究体制と体験学習の重要性が認識されるようになった。これより瀬戸内海において環境問題が重要な研究課題になることを予測し、農学部附属浅海域環境実験実習施設が設立された。平成21年には「庵治マリンステーション」と名称を変更し、本大学の瀬戸内圏研究センターに移設された。

当施設は四国最北端の庵治半島先端に位置し、周辺には自然の砂浜や岩場など、自然環境に大変恵まれている。香川大学の海洋環境に関する教育研究の前線基地となっており、海洋調査船“カラヌスⅢ”（19トン）及び“ノープリウスⅡ”（1.1トン）が配備されている。また、最新鋭の海洋調査機器、化学分析装置も備えられている。



海洋調査船「カラヌスⅢ」



奥の建物が「庵治マリンステーション」
（手前建物は「芸術未来研究場せとうち」）

学内の教育・研究活動の他にも、一般市民を対象とした「香川大学公開講座」をはじめ、地域のニーズに対応した体験学習・研修等を実施している。





主要機器・他

クロロフィル測定装置

分光光度計

多項目水質計

塩分・水温計

正立顕微鏡

倒立顕微鏡

顕微鏡写真撮影装置

バンドーン採水器

北原採水器

GS型採泥器

エクマンバージ採泥器

KK式採泥器

水中ドローン

超音波バイオテレメトリー観測装置

発信器, 受信機, 追跡装置

水中映像転送システム

● 研究課題

地域の沿岸環境が抱える諸問題に積極的に取り組んでいる

- 沿岸域の低次生物生産環境
 - 赤潮の発生に関する海洋環境
 - 養殖ノリの色落ちに関する海洋環境
 - 魚介類養殖漁場の適正管理に関する研究
 - 水環境システムの数理解析と数値シミュレーション
 - 藻場造成礁を用いた藻場再生
 - 人工礁を用いた底生魚の増殖機能評価
 - 物質循環過程を主とした干潟生態系の解明
 - 瀬戸内海の生態系研究
- など



● 土地／建物 他

敷地面積 1,039 m²

研究棟：鉄筋コンクリート造2階建（延面積 432 m²）

1階：管理・研究室，マリンスタージオ，
観測準備室，恒温実験室

2階：科学実験室，生物実験室，
機器測定室，交流スタジオ

危険物保管庫（延面積 3 m²）



実験・実習、観測
試料の処理を行う
マリンスタージオ



研究打合せや
各種会合を行う
交流スタジオ

● 調査船

カラヌスⅢ（定員41名）



アルミ合金製一層甲板船
19.95 X 4.3 X 1.5 m, 19トン

主機関

4サイクル船舶用高速ディーゼル機関
669 Kw X 2230 RPM 2基

最高速力 32ノット

航海速力 28ノット

航海計器

カラーレーダー

ハイブリッドヘディングセンサー

DGPS航法装置

カラービデオプロッター

カラー魚群探知機

通信設備

27MHz DSB送受信機

衛星非常用位置指示無線標識

搭載機器

航行連続観測装置（表層海水連続モニター）

多項目多段採水装置（CTD-RMS）

超音波ドップラー流速計（ADCP）

海底地形探索装置（サイドスキャン・ソナー）

高度情報発信受信システム

小型調査船

ノープリウスⅡ（定員10名）

FRP製

6.22m X 2.16m X 0.78m

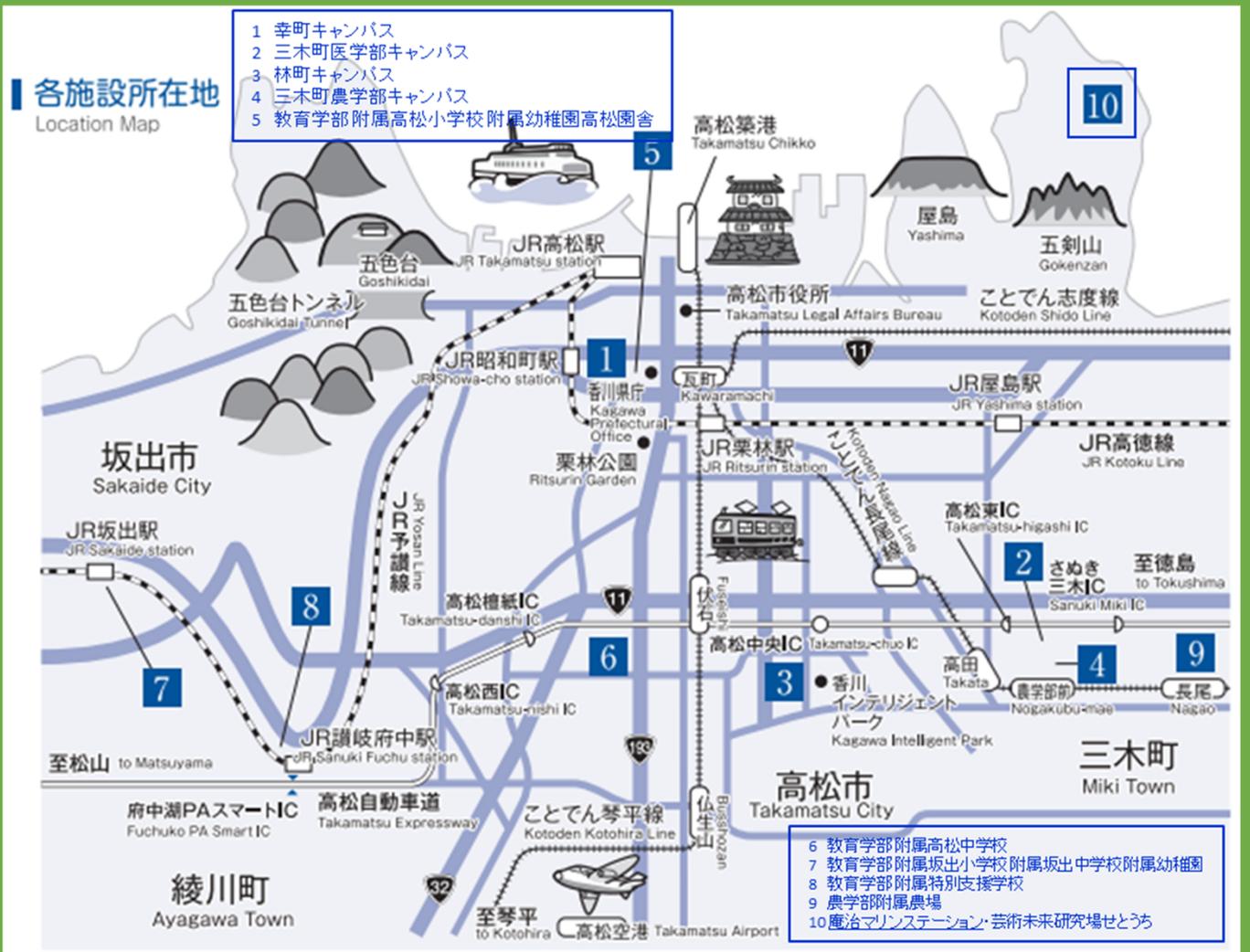
1.1トン

ディーゼルドライブ船 75PS

最高出力23ノット

フルノGPSプロッター魚探搭載





香川大学 瀬戸内圏研究センター
庵治マリンステーション

〒761-0130

香川県高松市庵治町字高砂4511番地15

TEL&FAX : 087-871-3001

<https://www.kagawa-u.ac.jp/faculty/centers/27261/>